

避寒小録

四

松田居士と語る

特別
14
1919
177



と云ふことゝも、昔其廿廿書画の勢ふるの
てを絶するに持するを断するの、敬しいい
て、うゝと云ふこと目障りとも、いふは、
俄比と云ふ、文の、校及、謝恩、し、
と、其、支那札と、
ん、
の、
の、
自、
方、
揚、



目、
花、
也、
此、
と、
飲、
ハ、
ン、
ハ、
読、
此、
用、

ついでに体よりいふううううううと入るとこ
れも細くはる、余り之を聴くは其のちかひ入ら
ぬや現る着るはる茶室の毛糸のシヤツも
随分大ききものあり、自分からいふに、
二十年前位縫ひあつたものと云ふと仰入つて云
ふこと、之を毎年しつて自分から作つて改
めさせるのむちさういふむちさういふ、
何れも同じものごとくと云ふ、
りつても同じものごとく、
余り更なるハレシ
ヤツの甚きものも、
太と縁の付るもの、
洋服
アレは甚だむちさういふお目も、
ヤツだが、
あんな



かきううううういふと云ふと、
吹き出ししものを、
した、
お年一洋服屋を呼びいふと、
ちううと云ふこと、
服屋を流行らぬ、
あつても、
ちいし、
ひあつた、
ても余り笑を、
そこへ

作者の精神よりよきものとして支離滅裂の
ありしころをつきとてごしと書きまはるる
と作者の達意を此上とせらるる
○坊の~~事~~、~~あり~~を~~不~~意の~~目~~行権を~~得~~
~~事~~の~~第一~~、~~目~~の~~あり~~と~~事~~を~~得~~て~~来~~
てこゝる~~事~~行権を~~得~~て~~来~~て~~来~~る~~事~~
い日~~事~~の~~あり~~と~~事~~を~~得~~て~~来~~る~~事~~
来す~~事~~の~~あり~~と~~事~~を~~得~~て~~来~~る~~事~~
深し~~事~~の~~あり~~と~~事~~を~~得~~て~~来~~る~~事~~
相~~事~~の~~あり~~と~~事~~を~~得~~て~~来~~る~~事~~
若竹~~事~~の~~あり~~と~~事~~を~~得~~て~~来~~る~~事~~



乃んび一々心ある

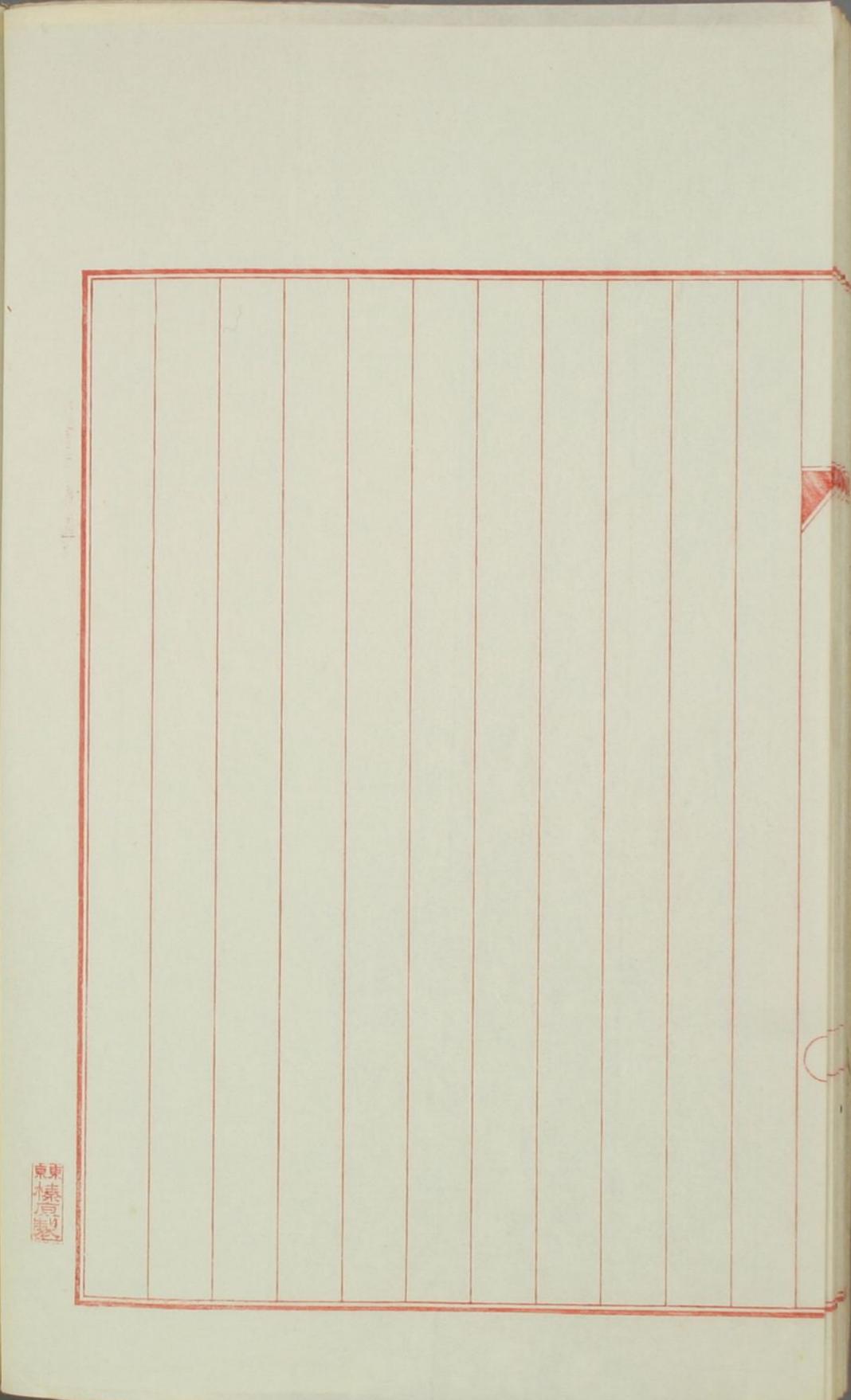
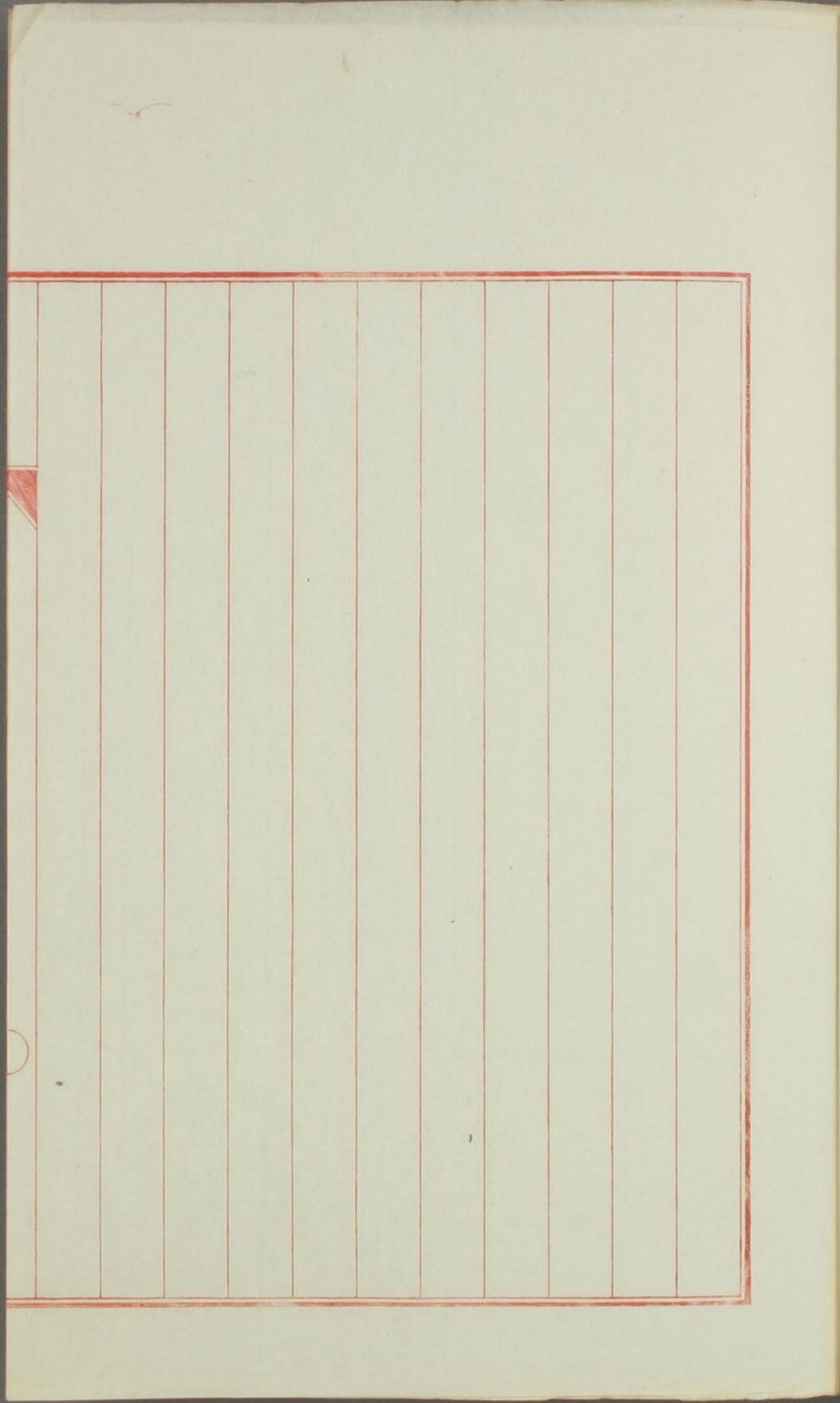
何ゆゆ~~事~~の~~あり~~と~~事~~を~~得~~て~~来~~る~~事~~
と思つ~~事~~の~~あり~~と~~事~~を~~得~~て~~来~~る~~事~~
お~~事~~の~~あり~~と~~事~~を~~得~~て~~来~~る~~事~~
何~~事~~の~~あり~~と~~事~~を~~得~~て~~来~~る~~事~~
行~~事~~の~~あり~~と~~事~~を~~得~~て~~来~~る~~事~~
ひ~~事~~の~~あり~~と~~事~~を~~得~~て~~来~~る~~事~~
し~~事~~の~~あり~~と~~事~~を~~得~~て~~来~~る~~事~~
に~~事~~の~~あり~~と~~事~~を~~得~~て~~来~~る~~事~~
氣~~事~~の~~あり~~と~~事~~を~~得~~て~~来~~る~~事~~
氣~~事~~の~~あり~~と~~事~~を~~得~~て~~来~~る~~事~~

らきり比うらを倫多のきりかきり
金ども男女お揃するの心を渡りける行
うまの、男の女は、流しもの、一羽位離
れを折目をいしく正しし口流うやをも
得るいとよふと云うる奇観此のきりかきり

〇つうごううえしきうれこそういんが歌
お夜着の格をう向正面の横姿のきりかきり
作者の収入のゆきしきりきりきりきりきり
きりきり黙河流を優遇しきりきりきり
七橋志を千代田貝株を建債しきりきり

東橋原製

あううこんの流しぬあことこのあう西洋きり
作者の流しぬうらうのきりきりきりきりきり
い作の作をわらせきりきりきりきりきり
味方を入ぬおきりきりきりきりきりきり
きりきりきりきりきりきりきりきりきり
おきりきりきりきりきりきりきりきり
きりきりきりきりきりきりきりきりきり
うあきりきりきりきりきりきりきりきり
い、彼れをきりきりきりきりきりきり
きりきりきりきりきりきりきりきりきり



東
洋
製

以下全て
白紙

明治三十七年
二月上院熱
海峽中